

* 相模川：山梨県山中湖に源を發し全長113kmの一級河川。山梨県は桂川、神奈川県へ入り相模川、河口付近では馬入川とも呼ばれている。源頼朝の馬が相模川の中に暴れ入ったという伝説から。

三段の滝

相模川支流の鳩川は、海老名市で相模川に合流するが、途中、下溝と磯部の境の辺りで、相模川へ水を逃がす分水路が設けられ、段丘上からの放流の勢いを緩衝するために三段の段差が造られていることから、「三段の滝」と呼ばれている。

磯部頭首工

流域農地灌漑のために昭和初期に設けられた堰で、相模川左岸用水路の取水口がある。また右岸の灌漑用水としても用いている。この場所には江戸時代後半にはすでに灌漑用水のための取水口があり、大山道の「磯部の渡し」があった場所でもある。

相模川芝桜

この芝桜は、「新戸老人クラブ寿会連合会」の会員が、相模川の環境を守るため、渋田川の芝桜の苗を分けてもらい、地域の人たちの協力のもと、平成14年5月から、世話をしてきたもの。今では長さ1.2km、幅約5m、約4万株にも及ぶ芝桜の帯が堤防を彩っている。

座架依橋

厚木市と座間市を結ぶ42号線の重要な産業道路。旧座架依橋は昭和34年完成。座間と依知の一字ずつを取って座架依橋と命名。しかし、相模湖にダムができるまで、たびたび洪水があり、木造の座架依橋はすぐに流されてしまい、平成4年本格的な近代橋に生まれ変わった。

** 依知(エチ)：「アノカ」に由来。「鮎の獲れる川」のこと、愛知の語源にも。

** 座間：古代、古東海道が通り、宿駅 相模国高座郡夷参(伊参)(いさま)の駅があった。後に略して、これが地名「座間」の発祥といわれる。